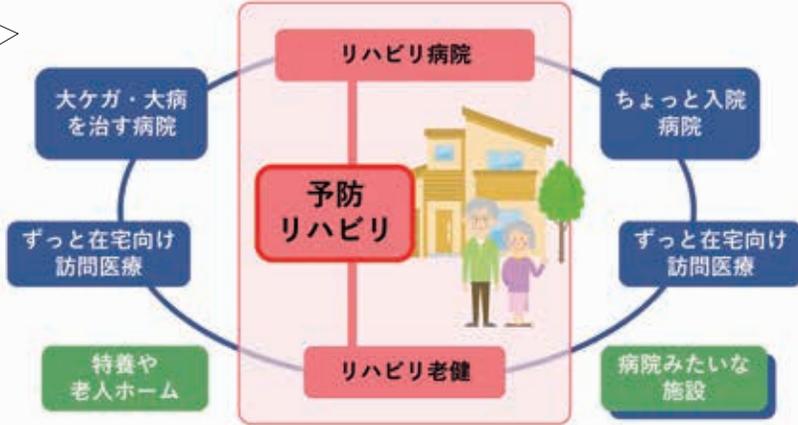


# コープリハビリテーション病院・老健あかねだより



コープリハビリテーション病院は、川崎医科大学附属病院と倉敷中央病院との連携病院です。

リハビリ病院ナリハビリ老健の2本立ては家で暮らしたい人のためです。そのときあると助かるのはちょっと入院・ずっと在宅医療です。  
図中の「病院みたいな施設」は介護医療院といいます。今後、多くの病院がこちらに転換することが見込まれています。



明けましておめでとうございます。今年も私たちは皆様の健康な暮らしに役立てるよう頑張ります。

## 10年先の地域医療モデル

コープリハビリテーション病院 院長 鍛本真一郎



夕張市は財政破綻から医療崩壊しました。ベッド数は往事の10分の1、19床です。高齢化率は日本一です。ところが三大疾病すべての死亡率が

だから入院ベッドが必要と考えるのは利己的経営です。ベッド数で住民の幸福は保障されないからです。もちろん今のコロナ感染状況ではベッドは必要ですが何年も必要ではありません。災害時の避難所・仮設住宅が何年も残る地域が幸福でしょうか？

う頑張ります。さて「コロナは医療界の苦境を15年前倒しした」と言われます。コロナ以外の患者数が増えているのです。「老人が増えるから病気も増えるでしょ」はその通りなのですが、発熱や脱水の老人ばかり入院しても高度な医療体制は活かされないし、老人が長く入院すればみるみる寝たきりです。それをリハビリテーションなしで元の暮らしに戻すのは大変です。戻しても予防を怠るとまた入院です。

私たちがリハビリテーションを武器に、従来からの急性期病院と住まいの架け橋に加え、住まいで生活機能の悪化予防、さらに「健幸アップ教室」に代表される元気高齢者を増やすチャレンジにも挑戦してまいります。めざすは「心を満たすリハビリ」です。

減少しました。夕張市民の「予防意識」のおかげだそうです。「夕張に生き生きしてない高齢者は一人もいなかった」と語る医師もいます。「ちょっと入院ずっとわが家」が実現しているのです。

日頃、医師として働く中で、一番大事にしていることは「患者中心の医療を出来ているか？」ということ。医療、介護は様々な職種から成り立っています。医師、看護師、リハビリ、介護福祉士、社会福祉士、公的機関、そして患者利用者本人と家族です。この中で優先されるべきは患者利用者、次に家族でしょう。これは概ね理解されており、病院の理念には必ずといっていいほど「患者中心の○○」が入っています。この「患者利用者中心の医療」というのは簡単なようで、実際は容易いものではありません。例えば、抗がん剤の治療を行う上で、薬の作用と同時に、吐き気や

## 患者利用者中心の医療・介護を目指していくには？

倉敷中央病院 救急科 田村 暢一郎

しんどさなどの副作用が問題となります。この副作用の評価を主治医と患者本人が同時にした際に、医師は「抗がん剤の副作用はそこまで強くない」と過小評価していることが明らかとなつていきます。このような医療者評価と患者評価のギャップは癌だけでなく様々な疾患の患者さんで行われています。

ではどうすればこのギャップを小さくできるのでしょうか？キーワードは医療者・患者関係です。理想的な関係として治療の目標を医療者と患者で共有する (shared decision making) というものがよいとされています。これまでは説明と同意 (Informed consent) であり、これは病気や治療方法の説明を行い、選択肢を提示したうえで、患者が選択するというスタイルです。Shared decision making は医療者が患者背景や考え、倫理観などを理解し、患者と一緒に考え、選択するというものです。「医療者が患者の考えを理解する」これを現在の超高齢化社会である日本で行うには、医療者と患者が最終的にどのような生活を送ることを目指すか？という目標を共有することが重要です。なぜなら高齢者の場合、疾患を完全に治すのではなく、疾患による機能障害をある程度抱

えながら、どのように自己満足な生活を送るか？が目標となるケースが多いからです。医療者が患者利用者生活を理解し、患者利用者と話し合い、一緒に目標を作っていく。これを行うには、最終目標である生活を科学することが求められます。奇しくも昨年、鍛本院長が広報誌2020年1月号にて「どう暮らすかを科学する」という題名で新年の挨拶をされております。コープリハ、老健あかねを中心にこの水島地区で上記のような理想的な医療者・患者関係が構築されていくことに少しでも寄与するのが私の今年の目標です。皆様ご協力よろしくお願いたします。



生活を知った上での目標共有の効果を調査。短時間通所リハビリにて (手前右が筆者)

入院や入所に際して、部屋代はいただいません。

# まるごとリハビリを 支えるスタッフ紹介

回りハ病棟での勤務は初めてですが、こちらの病棟では、病気やケガの状態や程度だけではなく、これまでの生活歴・そしてこれからの生活の双方を見つめ、どういう機能の回復が必要なのかをオーダーメイドで計画し、それぞれの専門職の方々が関わっていることに感激しつつ勤務させていただいています。

さて、新年を迎えるにあたり、心新たに、自身の仕事に2つの目標を作り直しました。

一つ目は病棟スタッフの後方支援ができること。

意外と時間を取られるカルテの整理や、職員の勤務に関する事務作業など事務全般を分業して担うことで、少しでも医療や介護のスタッフが患者様との関わりに専念してもらえれば幸いです。

二つ目は、外から訪れる方が何でも聞きやすい場所となること。私も家族の入院などで色々な病棟に行っていたことがあります。慣れない場所です。どうしていいかわからないことがありました。回りハ病棟では、ご面会時のご家族がご不安を感じないように、クッションの役ができればと思っています。今はコロナウイルス



筆者：三宅 聖子

スの関係でご面会もままならない状態ですが、従来通りになった時には笑顔で迎えてできればと思っています。

コープリハビリテーション病院  
3階回りハ病棟  
事務 三宅 聖子



入所前のA様宅へ自宅訪問

老健あかねで施設ケアマネージャーとして勤務している福田です。2019年に入職し介護福祉士として5ヶ月間介護の現場に携わった後、施設ケアマネージャーとなりました。右も左も分からず、不安しかない私でしたが、多職種の職員の皆様に支えていただき、あっという間に1年が過ぎました。

現在、新型コロナウイルス感染症の患者が増加する中、入所中の面会が禁止となり多くのご家族から会えない事への心配や退所する事への不安の声をよく耳にします。その声を拾い何が不安なのか、どうしたら解決するかを多職種と連携していく事も施設ケアマネージャーの役割だと考えています。

3か月毎に在宅と老健あかねの入所を繰り返されているA様は、ご自宅でも多くの介護サービスを利用しながら同居生活を送られています。今回6回目の入所と

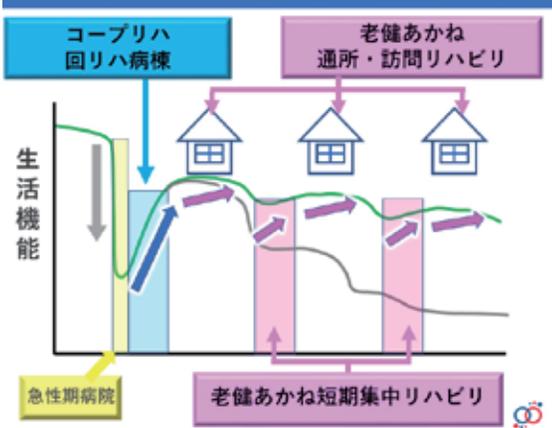


筆者：福田 麻衣

なりましたが、在宅と施設の循環型生活を順調に導くためにも、施設ケアマネージャーがその一役を担わなければいけないと思います。一段と寒くなりさまざまな感染症が心配される季節となりますが、多くの入所者の方がご家族の待つ自宅や住みなれた地域で安心して暮らしていただけたらと思います。

老健あかね  
介護支援専門員  
福田 麻衣

## コープリハとあかねの循環モデル



老健あかねは、通所リハビリ・訪問リハビリ・短時間通所リハビリとの連携をしています。

○お問い合わせ先  
倉敷医療生活協同組合  
コープリハビリテーション病院  
老人保健施設 老健あかね  
TEL 086-444-3212 (代表)  
受付時間 平日9:00~16:30  
土曜日9:00~12:00  
(日祝・年末年始を除く)

〒712-8057  
倉敷市水島東千鳥町 1-60  
ホームページ: <http://coopreha.jp/>  
メールアドレス: [info@coopreha.jp](mailto:info@coopreha.jp)  
広報委員会  
発行責任者 笹舘 勝人

診療表					老健あかね [086-446-6541]	
コープリハビリテーション病院 外来受付時間 8:30~12:00 [086-444-3212]					訪問リハビリ	通所リハビリ
診療時間	外来	装具 外来	歯科	短時間 通所 リハビリ	短期集中 健診アップ 教室	
午前 9:00~ 12:30		14:30~ 15:00	午後	9:00~ 16:50	9:30~ 11:00	9:00~ 16:00
月				○	○	○
火	渡辺	(予約制)	(予約制)	○	○	○
水	川村			○	○	○
木	太田		(予約制)	○	○	○
金	飯塚			○	○	○
土					○	○

医療福祉相談・連携室		
相談 受付時間	平日	9:00~12:00 13:30~16:30
	土曜日	9:00~12:00
	日・祝日	休み

### 新入職員紹介

コープリハビリテーション病院 事務 鶴馬 裕子	コープリハビリテーション病院 事務 長岡 そのみ	コープリハビリテーション病院 医療ソーシャルワーカー 山本 ゆうり
老健あかね 通所リハビリテーション 介護士 古谷 町子	老健あかね 看護師 平松 清子	コープリハビリテーション病院 事務 伊藤 智里

無料低額診療事業・無料低額介護老人保健施設利用事業を行っています。